

教えて、安藤先生！～前編～

中教審 情報・技術ワーキンググループ委員に聞く
情報教育関連教材「mirai創造ラボ」

CTC未来財団

生成AIやデータ活用の進展に伴い、学校教育にも新たな学びが求められています。CTC未来財団は、中高生向け情報教育補助教材「mirai創造ラボ」を開発しました。本教材を監修したのは、当財団理事であり、中央教育審議会 情報・技術ワーキンググループ委員も務める広島工業大学教授の安藤先生です。今回は、教材の魅力や学校教育と実社会をつなぐ意義、そして財団への期待についてお話を伺いました。

安藤 明伸 教授
(あんどう あきのぶ)



学校と社会を繋ぐ「mirai創造ラボ」



Q. 「mirai創造ラボ」の教材をご覧になった印象は？

A：安藤先生

まず感じたのは、テーマの着眼点が非常に良いということです。データ活用、生成AI、クレジットカード不正利用検知という三つの教材は、いずれも学校現場で重要性が高まっている一方で、先生方が「何をどう教えればよいのか」と悩んでいる分野だからです。現在、中央教育審議会では2030年以降を見据えた教育内容の議論が進んでいますが、その中でもデータ活用やAIに関する学びは、ますます重要になると考えられています。そうした流れを踏まえても、この三つの教材は今の学校現場が求めているテーマを的確に押さえていると感じました。

Q. 特に評価されている点がありますか？

A：安藤先生

大きな価値は、企業の第一線で活躍するプロフェッショナルが制作していることです。学校でもデータ活用や情報モラルについて学びますが、どうしても教科書的な内容になりがちです。一方で、mirai創造ラボの教材には、実際に企業で活用されている技術や考え方が反映されています。例えばデータ活用であれば、高校では統計や分析手法を学びます。しかし、生徒たちは「その先に何があるのか」が見えないまま学習していることも少なくありません。企業がどのようにデータを活用して課題を解決しているのかを体験することで、学びの意味がより明確になります。また、クレジットカード不正利用検知の教材では、単に「気を付けましょう」という話ではなく、テクノロジーがどのように社会の安全を支えているのかを理解できます。生成AIについても使い方だけではなく、その仕組みや本質を学べる構成になっている点が素晴らしいと思います。

「mirai創造ラボ」教材紹介

<https://mirai-zaidan.or.jp/what-we-do/support/lab/?anchor=support-nav>



データカッターEducation版一



クレジットカード不正検知



生成AI基礎講座

学校の外にあるITの実際を知る

Q. 学校でITを教える難しさは？

A：安藤先生

学校では知識や技能を学ぶことはできますが、その知識が実社会でどのように活用されているのかを伝えることには限界があります。先生方は教育の専門家ですが、企業で実際にデータ分析やAI開発、セキュリティ対策に携わっているわけではありません。そのため、生徒たちが将来出会う仕事や社会との接点を具体的に語ることは難しい部分があります。だからこそ、企業が教育に関わる意義は大きいと思います。生成AIにしても、積極的に活用している学校もあれば、慎重な姿勢を取っている学校もあります。

先生方自身も学びながら対応している段階ですので、不安や戸惑いがあるのは当然だと思います。実際、私は教員向けにmirai創造ラボの教材を活用する可能性もあるのではないかと感じています。生徒だけでなく、先生方自身がデータ活用や生成AIの本質を理解する機会としても価値があるのではないのでしょうか。

Q. 生成AIは企業や社会にも大きなインパクトを与えています。

A：安藤先生

そうですね。私はよく「私たちは自分で考える最後の世代かもしれない」とお話ししています。これまで人は、自ら調べ、考え、文章をまとめ、責任を持って発信してきました。しかし生成AIの登場によって、一定水準の文章やアイデアを瞬時に得られるようになりました。もちろんAIを活用すること自体は悪いことではありません。ただし、最終的に判断し責任を持つのは人間です。だからこそ、これからの子どもたちには「答えを得る力」だけでなく、「考え続ける力」が必要になります。AIが提示した情報を鵜呑みにするのではなく、本当に正しいのか、自分はどうか考えるのかを問い続ける姿勢が重要だと思います。



カードゲームで学ぶデータ活用

CTC未来財団に期待すること

Q. CTC未来財団に期待される役割は？

A：安藤先生

学校と社会をつなぐ存在になっていただきたいと思います。文部科学省も近年、企業や地域の専門家など外部人材との連携を重視しています。学校だけでは提供できない学びを補完し、子どもたちに実社会との接点を届けることが重要になっているからです。その意味で、mirai創造ラボは単に知識を教える教材ではなく、子どもたちが未来の社会を具体的にイメージするきっかけを提供していると思います。

Q. mirai創造ラボには今後どのような可能性がありますか？

A：安藤先生

現在は高校生向けの内容が中心ですが、将来的にはもっと低年齢層にも広げられる可能性があると思います。例えばデータ活用であればお



生成AIを駆使して学校PRポスター制作

店屋さんごっこのような遊びの中にもエッセンスを取り入れられるかもしれません。生成AIや情報セキュリティについても、年齢に応じた形で学びにつなげることは十分可能だと思います。大切なのは、専門的な知識を学ぶ前の「気づき」や「体験」です。教育心理学では、それを受け止めるための土台を「先行オーガナイザー」と呼びますが、mirai創造ラボはまさにその役割を担える教材だと感じています。子どもたちが社会とつながりながら学び、自ら考える力を育てていく。そのための橋渡し役として、今後もCTC未来財団の取り組みに期待しています。